

第 4 学年 道徳学習指導案

- 1 主題名 正直に生きる
- 2 内容項目 1－(4) 反省、誠実・明朗
- 3 資料名 「百点を十回取れば」

4 ねらい（視点）

□ねらいとする道徳的価値について

1－(4)は、「過ちは素直に改め、正直に明るい心で元気よく生活する。」ことをねらいとした内容項目である。低学年の「うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に伸び伸びと生活する」を受けて、主に自分自身に対して偽りのない正直な行動をとることの快適さに気付かせ、明るく元気な生活を送ろうとする態度を育てるものである。そして、高学年の「誠実に明るい心で楽しく生活する」につながっていく。

中学年における児童は、とくにうそをついたりごまかしをしたりしないことも含めて、自分自身に正直であることの快適さを自覚できるようにする必要がある。さらに、過ちを犯したときには素直に反省し、すぐにでも正直に伝えられるなどして改めようとする気持ちをはぐむことも求められる。正直であるからこそ、明るい生活が実現できることを理解し、この段階の活動的な特徴を生かし、児童それぞれが自分らしく元気よく生活しようとする気持ちを育むことが大切である。

□資料について

うそをついたり、ごまかしたりせず、正直に明るく元気に生きようとする心を育てるために、本主題では、読み物資料「百点を十回取れば」を取り上げることにした。

本資料は、主人公のでつろうが、「漢字テストで十回続けて百点をとったら、サッカーシューズを買ってもらおう。」という母との約束から、漢字テストの勉強に取り組み始める。十回目のテストでも百点をとるが、それは採点の間違いによる百点であった。

黙っていてごほうびをもらうか、正直に言ってサッカーシューズのごほうびをあきらめるか、その両者のでつろうの心が揺れ動く。このような「どうしよう」という葛藤は、子どもたちの経験の中でもあると思われる。

迷いながらも、自分で正直に生きる道を選んだでつろうは、正直に先生に話し、母からほめられる。百点をとったことよりも、一生懸命努力したこと、正直に言えたことなど、さらに深い道徳的価値に気付かせることのできる資料である。

□一人一人の学びを生かす

児童は、全体的に素直で善悪の判断について、互いに律することができる。道徳的価値について正しい認識をもっているようである。

しかし、実際の生活では、自分に都合の悪い場面で言葉をにごしたり、うそをついたりして何とかごまかそうとする様子が見られる。ときには、友だちの悪い行為に対して批判しながらも、自分が悪い行為をしてしまったときには、友だちの注意を素直に聞き入れることができないときもある。頭では分かっているけれども、実際の行動に移すことは難しいように思われる。つまり、自分の心の中で葛藤が起こっているのである。誰も、自分の弱い心に負けて、うそやごまかしの行為に駆り立てられることも少なくない。そこで、正直な行動が明るい生活につながることを気付かせていくことが重要であると考えられる。

視点1〔パフォーマンス〕 自ら思いを巡らせるための教材化

《思いを巡らせる姿》 てつろうくんが先生に言うか言わないかについて本文をもとに考える姿

問いを生む	可視化のためにICTを生かす
<p>資料を教師が途中まで範読し、「てつろうくんは、このときどんな気持ちだったか。」と問う。「先生に言わないといけない。」「先生に言わないでおきたい。」という二つの相反する気持ちがあることに気付かせる。また、「このときのとつろうだったら。」「もし自分だったら。」と二つの視点から、「どうしたらいいのだろう。」という問いを生む。子どもたちは、先生に言うか言わないかの二者択一になるのではなく、両方の気持ちが分かりながらも、どちらか一方に自分の思いが傾くことになると思われる。なぜ、自分の思いが傾いたのか、てつろうくんの思いに寄り添わせながらも、授業の後半では、「もし自分だったらどうするだろうか。」という気持ちについても考えさせていきたい。</p>	<p>導入場面では、教師の範読によって子どもたちに物語場面を想起させる。このときに、タブレット端末とテレビによる提示を行い、範読だけでなくお話の内容をイメージさせるように可視化を行っていく。聞くことによる理解だけでなく、視覚による理解も同時に促していく。</p> <p>授業の中盤には、「てつろうくんはどんな気持ちだったのか。」自分の立場をネームカードで貼らせたり、ワークシートに自分の考えを書かせたりする時間を取る。発表するときには、発表者のワークシートをテレビに映し、どんな考えをしていたのか見えるようにしていく。</p>

視点2〔ルーブリック〕 新たな価値を獲得するかかわり

《新たな価値獲得の姿》 正直に生きるとはどういうことか自分なりに考える姿

子どもどうしのかかわりを生む	板書から子どもの変容を生む
<p>てつろうくんのテストに誤って丸がついていることを知ったとき、てつろうくんがどんな気持ちが強かったのか、ネームカードを用いて、自分の立場をはっきりさせる。「相手の気持ちも分かるけれど、こんな気持ちだったのではないか。」と、相手の立場を尊重しながらも、自分の意見を言うことで、揺れ動くてつろうくんの気持ちに寄り添えるようにしていく。</p> <p>授業の後半場面では、「もし自分だったらどうするだろう。」と投げかける。「てつろうくんは、正直に言ったけど、自分だったら言わないでおく。」「最初は、言わないでおこうと思ったけど、何だか考えが変わってきたかもしれない。」というような発言なども取り上げ、自分の日常生活と結び付けながら、ねらいへと近づいていきたい。</p>	<p>てつろうくんが、先生に内緒にするのか、正直に言いに行くのか、この両者の心の葛藤（学級の中では、心のつなひきという言葉で共通理解している。）について対比させながら考えていく。どちらかの二者択一ではなく、メーターのように板書し、子どもの思いを表出しやすいようにする。「本当はサッカーシューズが欲しいけど、ちゃんと正直に言う。」というような、もやもやした状況を、ネームカードを使って明確に位置づけられるようにする。立場をはっきりさせることで、自分の思いを言葉で置き換えやすくさせていく。また、途中で「ネームカードを変えたい。」という子も張り替えさせていき、どうして心が変わってきたのか、その理由を聞き、個の変容を学級全体へと広げていく。</p>

5 本時の展開

時	主な学習内容・活動	評価・留意点
	<p>○教師による範読を行う。(途中まで)</p> <p style="text-align: center;">どんなお話かな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・てつろうくんは、漢字テストはいつも 50 点くらい。 ・一番の仲良しのひろしが 100 点をとって負けたくない。 ・お母さんと「10 回続けて 100 点をとれば、サッカーシューズを買う」という約束をする。 <p style="text-align: center;">てつろうくんは、どんな気持ちだっただろう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">先生に言わない</div> <div style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">あれ!?</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">先生に言う</div> </div> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em; font-weight: bold;">心のつなびきだ!?</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">もし、自分だったら、どうするだろう。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">正直に言うと、やっぱりすっきりした気持ちになるね。</p> <p>○本時の振り返り</p>	<p>○範読を聞き、てつろうくんの心の中で起きたであろう葛藤を引き出す。 【視点1】</p> <p>○ネームカードで自分の立場をはっきりさせる。 【視点1】</p> <p>○ネームカードを貼った理由をワークシートに記入させる。 【視点1】</p> <p>○「もし自分だったら。」と問い直すことで、お話と実生活を往き来し、自らの考えを深めるきっかけとしたい。 【視点2】</p>